

社説

臺灣島民の困難

臺灣島の近報に曰く當地は近年種々なる不作にして米價非常に騰貴し貧民は殆んど食料を得る能はず或は耕作の爲めに飼養する水牛を屠り食ふものさへあり無賴の徒に至りては公然他人の米を盗んで罪に問はるるも餓死するよりは尚ほ優れりとして毫も恐るるの色彩なく次第に罪人の多きを見るのみ臺北府などには彼地にて苦力と稱する人夫の數、非常に増し内地人の商店の前に群集して談笑を求むるも限りあるの仕事に限りなきの人數、業に就くものは甚だ少なくして何れも失望の體は餘所の見る目も哀れなる有様なり畢竟年來の戰亂にて農民は過半逃亡して跡を隠し然らざれば暴徒に與して或は捕はれ或は殺されなせして農家は全く業を失ひたるのみならず適には家に居残り耕作に従事するものもあれども本年はいつになく降雨多くして爲めに種々の腐敗を招き到底收穫の望なき其上に例年の如く廣東福州等より送米の途殆んど絶え香港安南より來るものなきに非ざれば其少量にして運目下の急に應ずるに足らず困難の情態は過般起したる暴徒の如きも日給を以て履はれたる農民の多きを以て其一斑を知る可し云々云々

北清所見

三月廿四日 特派員 松尾 久男 第十回通商航海條約談判の會見 昨廿三日林全權公使は内田書記官、高州書記生を従へ

午後二時公使館を出でて總理衙門に張全權と第十回通商航海條約の談判を開き點燈の煩囂たり聞くが如くんば談判の進行は意外に拂取り之を李全權の當時に比すれば交渉頗る容易なるもの如く張全權も亦勵精事に當りて間合短く屢々會合あるもの如し其進歩斯くも著しき爲めにや會見も最早や是れ限りにて済むるべしとの噂さへあり其當否は知らざれども元來此條約の談判は其關係する所も廣きが故に會見の度毎に兩全權各々意見を闘はし直に其場に於て確定するものにあらざるが故に直しや會見は是れ限りなりとするも愈々此條約が確定し雙方の全權が調印するに至るまでには尙ほ甚だ多き時日を費す事なるべし例へば例の製造品課税問題の如きは李全權之を主張して下らず以て今日に至り未だ決定せざるよし此の如く雙方互に意見を異にし相論難して容易に事の結着を見ざるものは先づ之を跳廻しとなし雙方に於て尙ほ熟考を重ね然る後彼此の意見相投したる時初めて確定するものなり故に會見は果して是れ限りなるや或は尙ほ一二回の會見あるや未だ知り難きも最早や遠からず會見を見ざる事なるべし去れど雙方調印の運びに至るまでには尙ほ三四ヶ月の日子を要すべしと云ふ

蘇州開港場問題

蘇州開港場問題に付我公使が屢々總理衙門を訪ひたる事は余の已に報せし所なるが右の問題に付ては總理衙門に於ても言を左右に托して容易に我が説を容れざるもの如く且つ右の問題は領事館に關する事にして當地にありては種々困難の事情もあり旁々今回我政府直接に總理衙門と交渉する事となりしやに噂す勿論居留地の問題の如きは既に馬關條約の規定する所にして今は只之を實行するのみなるに清國政府は例の慣用手段により言を左右に托して容易に肯諾せざるものなる由なりしも愈々我政府と直接に交渉する事となれば寧ろ事の進捗に都合よき事もあるべし

今日の遼東

遼東半島の地一たび我が有に歸したれど三國の忠言に依りて再び清國に返戻し今は我と遼東の關係なし去れど一たび我が軍の經過し若しくは占領したる彼の地の現況は如何我軍の彼地に殘したる評判と結果とは如何との問題を研究するも亦無用の事に非ざるべし 名譽の旅行者 余が今日の遼東を記して讀者に報せんとするは在北京陸軍監督補隈德三氏の實見せる所に據る氏は本年一月十三日を以て北京を發し山海關錦州、新民廳を経て奉天に達し更に遼陽海城營口を過ぎ前後二箇月間旅行して此程無事北京に歸着せり其間氏は日本人として旅行したる事なれば戰後人心穩かならざる地方に於ては時々に支那人を假裝せざるべからざる場合もありし由なれども格別の出来事もなく無事歸京せり蓋し戰後日本人として深く遼東の野を旅行せし嚆矢なるべし

一般の人氣

氏の經過せし一般の地方は日本を賞揚し特に遼東海城營口等の地方にありては直接日本人に接したる事として更に一層日本を敬慕するもの如しと云ふ元來是等の地方にありては戰争の爲めに親子兄弟を失ひたるものもあるべく産業を蕩盡し家屋を燬失したるものもあるべく其結果は多少日本人を怨望する者なるに却て之を愛慕するは何ぞや是れ我軍隊の規律嚴正にして秋毫も

犯さず我民政廳官の公平無私にして仁愛を主とせる固より彼の清國軍隊の強暴にして規律なく官吏の貪婪飽くことを知らざるものに比すべくもあらざれば一たび此妙味を悟りたる人民は最早や區々の私情を忘れて日本を追慕し果ては氏に對て日本の民たらんことを願ひ若し能はずんば實めては税關だけなりとも日本の監督に委ねたしなご嘲つものさへ多々なりしと尤も彼地にある兵士等が多少敵意を含み時には無禮の舉動もありしと雖も是は到底免れ難き處なるべし去れど一般に然るには非ずして中に稍々道理を辨へ居る者は日本軍の規律嚴正にし兵士の能く困苦に堪るを賞するものあり内に一士官の如きは終始我立見將軍と對抗したる趣にて頻りに其戰術を感賞し態々氏に托して其旨を立見將軍に傳へられたしと申出でたりと云ふ元來清人は一般に我邦人を輕蔑するものなるに此地に於ては全く之に反し西洋人は宗教を擴め金錢を得んことを望み日本人の仁義愛なるに比すべくもあらずと言ふものさへあり其感情は延て日用の物品に及び日本品と云ふべし云へば物の好悪と價の高下とを問はず争ふて之れを買はんといふ日本品は必要よりは寧ろ贅澤に使用するもの如しと云ふ是れ實に千載一遇の機會にして我商人の宜く留意すべき事なるべし

一般の嗜好

此地の人民が特に異様の嗜好を有するにあらざるも他地方に比すれば稍々華麗を好むもの如く特に奉天に於ては甚だしき由にて外國品の見かけ甚だ美麗にして便利なる物品は非常に之を好むと云ふ例へば呢帽傘の如き北京に於てすら支那人の之を携ふもの殆んど皆無と云ふ程なるに此地に於ては大に好みて携帶するもの甚だ多し其他マツチの如き必需品よりハンケチ巻煙草の如き贅澤品に至るまで總て外品を好むと云ふ而して是等の物品も亦戰争の爲めに多少入込みたれば幾分か戰争の餘惠として見るべきものならん蓋し亦我商人の見通すべからざる好機會なるべし

戰後の金融

戰争中に於ては未曾有の大軍遼東の地に集まりたる事とて區域狹少にして制度不完全なる金融界は忽ちして大凶愾を起し商賈は全く中止の姿となりて信用は地に落ち此後如何になり行くべきかを憂へしめたる由なりしが官吏は僅に一法を案出して此大凶愾を支へ以て稍々商況を恢復するを得たるもの如しと云ふ今其方法を開くに元來清國の貨幣は銅錢を以て其本位とし一市街には一戸乃至十數戸の錢舖より銅貨兌換の紙幣を發行し其紙幣は通用一地域内に限られたるものにして恰も我戰時の藩札の如きなり此紙幣の媒介によりて其地の商業を維持し錢舖相互にありては帳面勘定によりて貸借を結済したるなり然るに十數萬の大軍一時に遼東の野に入ると兵士は其俸給を銀にて受取るが故に之を錢舖に持参して銅貨と引換へんとし錢舖は平時銅貨の準備を目安として銅錢を貯へ置くが故に忽ちにして銅貨の欠乏を感じ引換を躊躇するや否や人民は紙幣を持参して取付けにかかりしかば錢舖も百計盡きて地方に流付くより地方屬も平時御用金を命するが故に其報酬として此に一計を案じ官錢局なるものを興し人民に合して曰く今や軍國多事にして金融界も亦將に亂れんとす故に地方屬は之を整理する間人民は錢舖發行の紙幣を借用して通用すべしと斯くて或る金額を限り

て官錢局中止したるも其能力を有するは出來たて一地域内のも遠かる